

未来を担う子ども達に『今』できること・・・

リチウムイオン電池の開発に貢献したとしてノーベル化学賞の受賞が決定した旭化成・名誉フェローの吉野彰さん。

彼は、大阪府吹田市で4人きょうだいの3人目の次男として生まれました。小学校の先生の勧めで英科学者ファラデーの著作「ロウソクの科学」を読み、自然の原理に触れたことが化学への興味の原点となり、子ども向けの科学雑誌を読んでさらに幅広い知識を身につけたそうです。

そんな、ノーベル化学賞の吉野彰さんが語った言葉で印象に残っている言葉は、「失敗をしないと絶対に成功につながらない」です。

法人の統括園長が、事あるごとに職員に言う言葉「失敗は成長のチャンス」があります。

失敗したことを恥じるのではなく、その失敗を次の成功に向けてどう改善していく（過程=プロセス）のか、が大切。失敗の中には、必ず学びがあり成功（成長）に繋がると言われています。

吉野さんと記者のこんなやり取りが紹介されていました。

■記者Q「子どもが失敗したときの対処法は？」

■吉野A「失敗をしないと絶対に成功につながらないのは間違いの無い事実だと思う。小さなお子さんの場合は特に失敗するとめげちゃうと思うが、失敗を繰り返して賢くなると思うので、そういう目で小さいお子さんを育てられたらいいと思う。」

可愛い我が子が困っていると、つい手を差し伸べてしまったり、失敗ないように、段取りよく先回りで援助をしてしまう気持ちはよくわかります。

ただ、そういう大人が増えると、失敗という経験をしない子どもも増えていきます。

息子が1年生の時、同級生の女の子がこんな発言をしていました。

「授業参観で手をあげられないの。だって、間違ったら恥ずかしいでしょう？」その言葉を聞いた時、出来たという喜びより、間違うという怖さの方が気になる時代になっていると感じました。

子ども達には、「失敗してもいい。どう乗り越えていくかの経験が大切。」と伝えるべきですね。

便利な世の中になり、子ども達の経験不足はこれからも増えていくでしょう。

出来なかったことをコツコツ練習して出来るようになる。この経験を保育園の中でも、たくさん取り入れていきたいと思います。

■記者Q「電池が発達して、20年後の未来はどうなっていく？」

■吉野A「間違いなく言えるのは、20年前に不可能だと言われていたことが平気で実現する。

今われわれが想像できていないような世界に変わっていると思う。電池と他の新しい技術が融合して、一緒になって新しい世界が生まれていく気がする。」

スマホが私達の生活にこんなに必要になってくる、と10年前に想像できたでしょうか？

10年前になかったものが今は、当たり前になる時代です。20年後にはもっと想像できない世の中がやってくるかもしれません。私達大人が育ってきた環境とは違う環境の中で、子ども達は生きていくことになります。

「これはダメ」「こうしなさい」と言うのではなく、子どもの小さなつぶやき『感性』を大切にしWhyなぜ？ Howどのように？を導きだすという、問いかけが大切になってくる時代です。

答えは1つではなく、いくつもの可能性があることを大人達も受け入れ、柔軟に取り入れていく、という発想転換が必要になってきました。

社会福祉法人清香会の法人理念は「新しい保育の創造」新しい保育をつくり出すこと。

日々、今の時代に必要な保育とは何か？を考えながら保育を行っています。

PR：男性保育士の取り組みとして、現在『かがく』を行っています。横浜りとするぱんぶきんずでは荒井先生が、子ども達に『かがく』を伝えてくれています。これをきっかけに未来のノーベル化学賞受賞が卒園生から出ることを願っています。（橋本）

